

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[58]歳、勤続年数[36]年、現場経験年数[36]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[54]歳、勤続年数[36]年、現場経験年数[36]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[54]歳、勤続年数[32]年、現場経験年数[32]年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員、その他:救命士]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者D・年齢34歳・勤続10年・現場経験10年・消防副士長・同様の活動(1年に数度) ・隊員

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	D	患者宅でCPA患者にAED装着	
経過2	A, B, C, D	CPA患者を救急車に収容し、自動心マッサージ器を装着	
経過3		搬送開始	
経過4	C	挿管完了	D: 挿管の補助
経過5	C	静脈路確保のため穿針し、留置針(内筒)の処理を助手席の隊長に依頼	
経過6	A	内筒(針)を使用済み挿管チューブの袋に入れて丸めていた際、針刺し受傷	内筒の入った袋を運転席と助手席の間に置く
経過7	A	針刺し受傷した旨を機関員Bに知らせる	搬送中
経過8	C	静脈路確保完了	D: 静脈路確保の補助
経過9		病院到着	
経過10	B	引き揚げ前の車内整理中、内筒の入った袋に触り、針刺し受傷	病院駐車場
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

資機材の操作がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

救命士の特定行為居着いてはプロトコルに従い厳正に実施すべき責任があり、かなりの重圧があります。資機材準備や補助の部分を他の隊員が担うことで、救命士が焦ることなく余裕をもって特定行為が実施できるよう実践的訓練を実施し、連携強化を図った。(隊として)

○装備・資機材の対策について

装備・資機材の変更等はないが、特定行為実施時に救急車内が散乱状態になるため、資機材バック内の小物入れバックを整理し、散乱状態を軽減する取組を行った。(隊として)

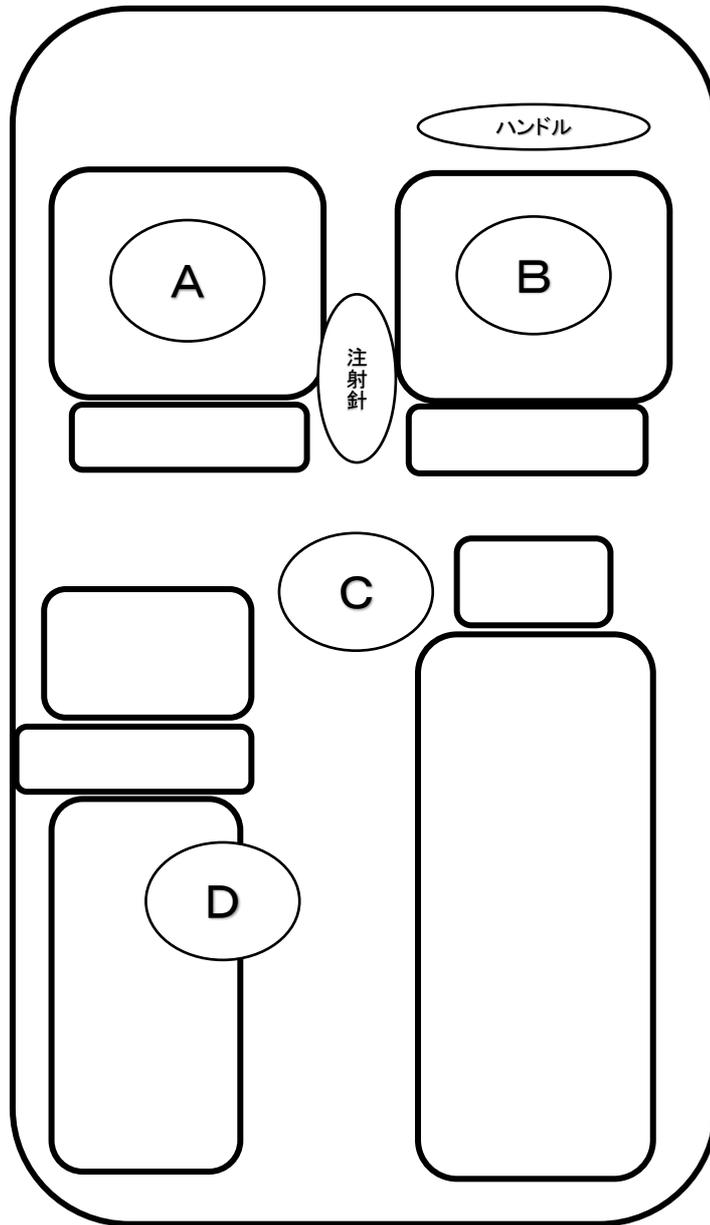
○活動環境の対策について

上記欄と同様の内容について検討した。

○指揮・情報伝達の対策について

第1事案については機材取扱要領の未熟、第2事案については情報伝達の不備が起因と考えられます。情報伝達は、確認呼称は当然であるが、発信側は、情報発信にとどまらず、隊員が意図を認識できていることを確認してから完了と考えます。隊として、意図を確認できる情報発信のあり方を検討し、他の災害活動も含めて隊の活動時の指示・情報伝達による意思疎通の連携訓練を実施した。

事故発生時の隊員配置図



高規格救急車